

[グリーン・イノベーション・農林水産業分野]  
総合特別区域評価・調査検討会における評価結果

令和6年度

ながさき海洋・環境産業拠点特区

[指定：平成25年2月、認定：平成25年11月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 ※『-』とされている箇所については平均値計算から除外

3.2

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	県内造船所による高付加価値船・省エネ船の建造量	92%	4
2	県内造船所による環境関連機器の取扱件数	97%	4
3	県内造船所が建造に携わったあるいは県内に設置された海洋再生可能エネルギー利用発電設備の総設備容量(累計)	35%	1

評価指標毎の進捗の評価の平均値

$(5 \times 0 + 4 \times 2 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 1) \div 3 = 3$

3.0

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。  
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

3.3

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 ※『-』とされている箇所については平均値計算から除外

2.7

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

-

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

2.0

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.3

### Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.7

・新新規建造発注にとっては向かい風が吹いている中ではあるが、地域として多彩な取組を展開して何とか活路を見出そうと努めている点は評価できる。ゼロエミッション船等の建造促進事業の採択、風力発電・潮流発電の今後の稼働予定など、海洋エネルギーについては少しずつではあるが、明るい兆しが見えてきたように思う。県内事業者による浮体式洋上風力発電所向けの浮体基礎の高速量産に向けた設備投資の提案が経済産業省の事業として採択され、今後の展開が期待される。労働力不足が一層進むことが予想され、長崎海洋アカデミーでの海洋専門人材育成が果たす役割は大きいと考える。

・高付加価値船・省エネ船の建造に力を入れているが、進捗度は落ちている。経済環境が厳しいことが要因と思われるが、事業の有効活用の可能性を十分検討したい。  
環境関連機器の取扱件数はおおむね目標を達成しているが、昨年度より減少しており、情勢分析は丁寧に行いたい。海洋再生可能エネルギー利用発電設備は厳しい状況が続いている。新たな実証機とその波及効果に期待したい。

・環境というキーワードで、省エネ造船、エネルギーを掲げてきていることに異論はないが、時代とともにそれらだけを対象にするには特区として厳しくなっているの世相である。三菱重工を中心にGX産業の在り方が変化しているため、それに応じての組み換えをして支援内容を考えるべきではないか。造船でのKPIはあまり意味がないのかもしれない。METIGXサプライチェーン構築支援事業対象になっていることが希望。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.7

### 総合評価

I、II及びⅢを1:1:2の比率で計算  $(3.2+2.7+3.7 \times 2) \div 4 = 3.3$

3.3

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

・評価は5～1(評点)で行う。

・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。

・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。